# CNSコース
## 神戸大学病院　木村有里

就職してから6年。日々のケアや業務、病棟内の役割をこなすことに精一杯で毎日があっという間に過ぎていました。一方で、この間に同期や先輩が別の病棟に異動するなど新たな環境に移っていくのを目の当たりにし、自分はこのままでいいのか、何がしたいのか、何ができるのかを考えるようになり、焦りを感じていました。そんな中、やはり私はがん看護に関わりたいという自分の原点を思い出し、もっと深くがん看護について勉強したいという思いを抱くようになり、母校である徳島大学大学院のがん看護専門看護師(OCNS)コースの進学を決めました。

大学院に入学した当初は、OCNSとは何か、自分にできるのかなど多くの不安がありました。しかし、授業や実習を通してOCNSに必要な知識や考え方についてとことん学び、とことん考えることで、***その事象に関わっている人々や起こっている出来事の“背景を考える”重要性に気付き、広い視野をもつこと***ができるようになりました。また、自分の経験した事例について様々な理論を使って考えることで、現場では気付くことのできない看護の展開方法の糸口を見つけ、新たな視点を得ることができました。これらはOCNSコースだからこそ得られたものだと思います。そして、同じようにさらに看護を学びたいと考えている仲間や実習先での指導者の方、先生方など看護に思いを持っている多くの方に出会ったことで、これからの自分の進むべき道を考えることができ、大学院での出会いはとても貴重なものになりました。

大学院に進学すると決めた後も進学してからも、臨床経験が6年しかない私がOCNSコースに行くのはハードルが高いのではないかと思ったり、***自分に本当にできるのか***と何度も思っていました。しかし、大学院で過ごした2年間という時間があったからこそ、***今までの自分を見つめ直し自分と向き合って過ごすことで、成長するための機会になったと同時に、看護をする上で大切にしたいことを再確認する時間にもなった***と思います。

そして卒業した今は、OCNSとしてがん看護に関わる全ての人々の力になりたいという思いを抱いています。

# 教育担当者コース
# 徳島大学病院　森本樹里

　私はストレス緩和ケア看護学を専攻し、がん看護について新たな知識を得るとともに、これまでの看護経験を振り返り、*看護理論を用いて考えることでその経験に意味づけを行い*、看護を深めることができました。現在では患者理解が深まり、患者や家族が置かれている個々の状況を考慮し、ニーズに合った看護について考えられ、がん看護の質が高まったと感じています

大学院で学ぶきっかけとなったのは
平成30年度から始まった
徳島大学病院の
教育担当者養成プログラムへの参加

　大学院では、指導者の役割、求められる能力、効果的な教育実践方法、授業の設計・実施・評価の知識を得ることができました

　2年間を通し、がん患者がもつ希望に焦点を当て、そこから生まれる看護師のジレンマ体験についての看護研究を行いました。

*　看護師は
　それぞれにジレンマを感じて
　苦しい思いを抱えながらも
　患者と向き合うことを
　選択していることが明らかとなり、看護の現場において
　潜在している
　看護師の抱える問題を明らかにし、その問題に取り組んでいくことの
　重要性を実感しました*

　この学びを活かし、今後は現場でのがん看護および教育に理論を取り入れ、患者や家族のニーズに沿った看護実践を行い、潜在した問題を解決できるよう取り組み、個々の看護師がもつ能力や資質を高めて現場の看護実践能力が向上することを目指していきたいと思っています

# 教育担当者コース
# 徳島大学病院　宮下由佳

がん化学療法看護院内認定看護師として臨床実践する中で、今後大学院でがん看護についてもっと深く学びたいという思いは持っていましたが、今まで仕事と子育ての両立に日々追われ自分のキャリアについて向き合うことが出来ていませんでした。

今回子育てが一段落し、改めて今後の自分のキャリアについて見つめ直す機会があり、以前から教育にも携わりたいと考えていたため徳島大学病院の教育担当者養成プログラムへの参加を志願しました。

大学院の授業では、教育担当者に必要な能力や資質、育成力・分析的思考力・対人影響力・セルフコントロール力を高め効果的指導ができる教育原理や教育技法を学習することができました。

また様々な看護理論を理解しながら事例検討を通して看護の関り方について振り返り、理論を実践に適用する実践的思考過程を学ぶことができました。今後新たな看護の視点を適用できるよう実践に繋げていきたいと思っています。

そして研究からがん化学療法看護のエキスパートナースの大切にしている実践で明らかになったことを、これから臨床実践で取り組み、活かしていきたいと考えています。

大学院での2年間は臨床とはまた違う貴重な知見や経験ができました。いつでも新しいことに挑戦することは、視野が広がり自分自身の成長に繋がると感じています。これらの学びから今後も内省しながら今まで以上に生涯学習を継続し、後輩達に寄り添える教育担当者になれるよう努力を積み重ねていきたいと考えています。

期待してます

# 修論コース
# 徳島大学病院　兵庫哲平

私は大学を卒業後、臨床で働いていく中で自分の看護の在り方やがん患者との関わりについて多くの疑問が出てきました。疑問に対して院内研究にも取り組んだところ、研究の楽しさやもっと深めていきたいという欲求が湧き出てきました。また院内研究を行うことでさらに疑問が増えてきたため、自分の疑問や看護の在り方についてとことん研究したいと思い、大学院への進学をぼんやりと考えだすようになりました。

当時2歳になる子どもを育てながらの進学は妻にも負担がかかるのではと思いましたが、妻からの「頑張っておいで」という言葉に背中を押されて入学しました。

病院からは夜勤のない配属への異動も打診頂きましたが、学んだことをすぐに臨床で試したいという思いから2交代夜勤をしながらの進学を決めました。

入学した当初は子育てとの両立に目が回りそうになりましたが、家族のサポートで乗り切ることが出来ました。1年の冬には第2子も誕生し、無事に立ち合いも出来ました。

大学院での学びは臨床においてのアセスメントを深め、より患者に深く関わることが出来るようになりました。これからも研究を続けながら臨床にフィードバックしていき、自身の看護を高めていきたいと思います。2人の子どもを育てながらの大学院は大変でしたが、振り返ってみれば子育てにも仕事にも研究にも全力で向き合えたと思います。この経験は自分にとっての誇りになりました。

# CNSコース
# 徳島大学病院　岡本　恵

私が進学を希望した理由は、がん看護の知識を深めることと、得た知識や技術を患者の看護に活かし、治療期の患者・家族の生活が安全安楽に過ごせるよう支援したいと考えたためです。

毎日ケアしている患者には、それぞれ抱えている問題があり、思いの傾聴、ニーズに対する情報提供や、多職種との調整を行っていますが、患者・家族が納得する意思決定支援ができているのか、自分に何を期待して相談しているのか疑問に思うことがありました。日々の臨床疑問を解決していくためにも、自分自身の考えや、起こっている事象を、論理的に整理できるような能力や、看護理論を活用して予測的に看護が展開できるようなスキルを修得したいと考え、がん看護専門看護師の教育課程への進学を決めました。

在学中は、がん看護やその他の専門家の先生方の講義を受講し、ディスカッションしたり、これまでの自分の看護を、理論やモデルを用いて明文化し、クラスメイトと発表したりと、学ぶ喜びを久しぶりに経験した時間でした。自分の考えをまとめ、プロセスを丁寧に述べることや、結果に至るまでに、なぜ自分がその方法を選んだのか、選択した思考を明確にすることについて、考える時間が多かったです。これまで気づかなかった自分自身の看護に対する考えについて見つめなおす時間にもなりました。

2年間のカリキュラムは、仕事と両立しながらだったので、大変な時もありましたが、大学院の先生方の配慮や、職場の理解があり、予定通りカリキュラムを受講することができました。また、オンラインの講義は、先生やクラスメイトに直接会えない寂しさはありましたが、移動がゼロなので、時間を有効的に使うことができました。

今後、がん患者の高齢化や、がんサバイバーの増加など、がん看護が必要となる場面がますます多くなると考えます。大学院で得た知識や技術を患者・家族へ提供できるよう、これからも研鑽を積みたいと思います。